

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	2年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「学び直し」の機会保障を前提に、生徒が授業の中でICT活用と同時に、主体的に他者と協働して取り組む活動を実践する中で、学習習慣の定着を図る。 ②学校行事及び生徒会活動等を充実させ、生徒が主体的に取り組む姿勢や新たなことにチャレンジする気持ちを育てる。	①教科会等で各教科・科目で学び直しを実践しているかを確認する。また、1人一台パソコンや教室に配備されているモニター等を活用し、学校全体として生徒が表現する活動を実践させていく。 ②学校行事において、安心安全に実施できるようにする。また、地域と連携して取り組めるようにする。	①教科会等で各教科・科目で学び直しを実践しているかを確認する。また、1人一台パソコンや教室に配備されているモニター等を活用し、学校全体として生徒が表現する活動を実践させていく。 ②生徒会を中心に、これまで取り組んできた内容を活かして、安心安全に学校行事を行えるように企画運営する。	①「学び直し」の機会の保障ができたか。生徒が主体的に他者と協働しようとする姿勢を引き出せたか。また、表現する力を伸ばすことができたか。 ②地域と連携して、安心安全に学校行事を行うことができたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①人間性や社会性の涵養を図るとともに、法律・ルール・マナーを遵守し、基本的生活習慣を身につけた生徒の育成を図る。 ②部活動や委員会活動、地域連携などの活性化を図り、生徒の自己肯定感を育みながら、それぞれの活動を通して責任感、協調性を伸ばす。	①多様な教育的ニーズに応じて自己肯定感や他者への思いやりの心を育てるとともに、規律と責任ある行動を実践できるように社会の一員としての自覚を涵養する。 ②部活動の加入者を増やす取り組みを継続して行う。また、委員会活動においては目標を明確にして活動内容を増やしていく。	①教育相談機関等と連携して「いじめ」「人間関係の不調」の早期発見・早期対応に努める。SNSの使用を含め正しいコミュニケーションスキルの育成に努める。 ②部活動紹介の取り組みを継続して加入者を増やせるようにする。また、一斉委員会デーの内容を変え充実した委員会活動を行えるようにする。	①「いじめ」案件、年間0件を目指す。「SNSの不適切な使用」年間5件以下を目指す。 ②それぞれの活動において、目標を達成することができたか。また、活動内容を増やすことができたか。					
3	進路指導・支援	①学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの社会性を養い進路実現を支援する。	①生徒が進路実現へ向けてどのような行動をとっていけばよいか、キャリア形成に必要な知識・能力などを経験を基に身につけることができるようにする。	ア) 体験を通じた進路関係の行事を計画・実施させる。また行事などに対する雰囲気づくりを行い集団として意識を高める。 イ) 全教員、SCC、SSW等と協力して生徒全員に対してきめ細やかな面接練習などができる基盤を整える。	ア) 3年間を見通した進路行事や学習を計画的に実施し、集団の進路意識を高めることができたか。 イ) 3年生全員に対して一定以上の統一した内容の進路支援ができたか。状況に応じた面接練習（集団面接など）が適宜できたか。					

	視点	2年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①広報活動の充実に取り組み、地域や中学生に本校の魅力・特色に関する情報を積極的に発信する。	①地域や中学生に対して広報活動を工夫して様々な発信をして宣伝活動を充実させる。	①日頃の学校生活など、Xや学校のHPの更新を増やしていく。また、学校説明会のアンケートも工夫して中学生が欲しい情報を模索する。	①Xや学校のHPの更新を増やすことができたか。中学生が求める情報を提供することができたか。					
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事を未然に防ぐ自覚を持つための取組を、継続的に行う。 ②心のゆとりをもって生徒支援や学校運営に携われる、教員の働き方改革を推進する。	①安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事を未然に防ぐ自覚を持つための取組を、継続的に行う。 ②勤務状況を継続的に確認し、長時間勤務のない職場環境を作る。	①定期的な研修の中で、事故・不祥事が起こる場面を具体的に自覚する。また、各グループの職掌の中で事故が起こりやすい場面を全体で共有する。 ②勤務時間管理システム等を活用し長時間勤務を把握し、産業医との面接につなげるなど、早期対応に努める。	①事故・不祥事研修を定期的に実施することができたか。その中で事故が起こる場面を自覚し事故防止に役立てることができたか。 ②長時間勤務の職員の把握と早期対応ができたか。					